



菜の花

JRの間にある斜面に菜の花を植える計画を立て、JRに植えさせてほしいと頼みましたが、ドハ斜面に地下茎の甘い菜の花を植えるとモグラが入り列車転覆の原因になるかもしれないと難色を示しました。それならポケットに穴を開け、菜種の種を落とし「野良生え」を作ろうと草を刈り野焼きをすることになりました。ところがよく燃えるからと下から火をつけたため火事となり、消防車の出動となり、列車まで止める騒ぎとなりました。結果的には悪意もなく不問となりましたが、ライオンズクラブから貰った菜種の種をポケットから落とし、翌年春綺麗な菜の花畑がお目見えしました。あれから30年も経つと今では伊予路に春を呼ぶと言われる双海の菜の花や水仙は県内有数の風物となり、今では国道の番号を378逆さに読む8(ハ)7(ナ)3(ミ)国道とし多くの観光客を集めています。

海岸国道に愛称をつけようと道路を管理する愛媛県に相談したところ、国道には番号がついているのでその必要はないと冷やかかでしたが、隣町長浜町と共同で募集した結果4500件もの応募があり、「サンセットロード」を押さえて「夕やけこやけライン」と命名されました。今ではこの愛称が道路地図にも載って知名度は大幅にアップしました。また国道の海岸線寄りのガードレールは白い帯状のものでしたが、薄いブルー色のガードパイプに替えてもらい、国道下の海とマッチした景観は大幅にグレードアップしました。町のキャッ

チフリーズは全国公募1800件の中から「しずむ夕日が立ち止まる町」が選ばれ、合併して伊予市双海町になった今も私たちの町の誇りとしてこのフリーズを使っています。

8 ボランティアグループの活動

私たちはかつて若い頃青年活動を行い、数々の恩恵を受けました。その恩を返すため、20人ほどの青年活動経験者が21世紀えひめニューフロンティアグループを昭和56年に結成しました。最初にやった活動はふるさとを空から見る運動でした。最初は「空を飛ぶ鳥は空の上でどのようにして小便をするのだろう」なんて馬鹿げたことを考えていました。やがてセスナ機4機をチャーターし自分のふるさとを空から見ました。水平思考が垂直思考に変わった出来事でしたが、その報告会をわが煙会所でやった折、煙会所の囲炉裏の煙が目染みて涙が出ると言った私の話が話題となり、子どもたちに夢と感動を与える「無人島に挑む少年のつどい」をやることになりました。かつて有人島だった温泉郡中島町由利島を選び、テントは持って行かず流木で小屋を建てる、時計は持ち込まない、メニューのない食事などなど、工夫を凝らしたくないない尽くしのサバイバルキャンプは、予想に反して大勢の子どもが申し込みをしてくれましたが、今までキャンプに参加したくても参加できなかった様々な問題を抱えた子どもたちを優先して参加させたため、それはもう大変でしたが、僅か4日間ほどのキャンプは子どもたちの心に感動を与え、勿論私たちにも大きな勇気を与えてくれました。以来鮫出没で中止を余儀なくされ、佐田岬や牛の峰、大野ヶ原と場所を変えながらも20年間にわたって活動を継続することができました。途中埼玉県北本市青少年育成会議と共同開催したり、事故を防ぐため長さ10m、直径1.6mのアラスカ産のモミの木をくり抜いて丸木舟を作り、松山～中島町大浦～由利島を航海をしたり、由利島に茅500束、竹150本を漁船をチャーターして運び、直径10mの堅穴式住居を作って語